

水ってすごい!

保育者が「子どもをどのように『観て理解したのか』『どのような育ちを読み取ったのか』により、「支える」方法は違います。ここで紹介する実践の子どもたちは、興味や遊びのイメージをもって、自分たちで遊びを進めています。思いを実現するために考えを出し合ったり、コトやモノと出会い気づいたことを遊びに取り入れたりして、試行錯誤しながら「もっと面白い」遊びへと展開しています。子どもたちの姿を見逃さず、適時の環境の工夫により「支える」保育者の援助を読み取ることができます。

社会福祉法人陣場福祉会 認定こども園 杉の子

3 歳児

<きっかけ> 室内で樋といを使ってビー玉転がしを繰り返し楽しんだAさんとBさんが、ビー玉が転がっていくには傾斜が必要なことに気づく。転がったビー玉を器に入れようと考えたり試したりするが、勢いがあり、素早く遠くまで転がってしまう。何度も繰り返し楽しんでいる姿を見守っていた保育者は、目につく所にボールなどを置く。すると、AさんBさんが、「これ使ってみる?」「ここに入るかな?」と言いながら、何度も繰り返していると、何回かに一度は目標に入るようになる。その後、戸外でも樋を使い遊ぶようになる。

場面 1. 水ってすごい!

<6月中旬>

保育者の関わり や読み取り

- 子どもたちは、「水を流してみたい!」と樋を使った遊びを楽しむようになり、この日は、コンテナから砂場へ樋を設定して穴を掘り、水を溜めたいという思いを共有しながら遊びが進む。
 - 「海だよ」「もっと大きくしよう!」と言いながら水を流すと、穴を掘った所にどんどん水が溜り、イメージ通りにいった嬉しさを感じている。
 - 水を流すうちに樋がずれ、砂に当たっていた。
- Aさん「えっ!なんで?」
 Bさん「水だよ!ここにぶつかったの!」
 「(穴が2つ空いていて)ブタみたい!」
 Aさん「すげー!穴あいた!」
- 思っていた通り水を溜めることに成功し、その嬉しさを共有していたところに、予期せず水の新たな力を発見し、喜びを分かち合っている。

砂場用具の中に樋を加える。

海だよ

もっと大きくしよう

ここ、ぶつかった



発見する経験

- 水が砂に穴をあけたことに驚き、水への興味を深めた。

3mほどの竹樋があることを伝える。



軽い!軽い!

繰り返す経験

- 協力していろいろな物を運ぶ。

イメージを共有する経験

- ヘルメットやタオルを身に着け、工事現場のイメージを共有して遊ぶことで、より仲間意識が増してくる。

思いを共有する経験

- 長い物をつなげたいという思いを共有して協力しようとする。

場面 2. 友達と一緒に

<7月上旬>

- もっと長い樋を使いたい気持ちが大きくなる。
 - 3mほどの竹樋があることを知ると喜んで、「手伝ってー!」と誘い合っ
 - て一緒に運び、設定し始める。
 - 樋を設置してみると高さが必要なことに気づく。
- Aさん「もっと高くしたらいいんじゃない」
 Cさん「コンテナ持ってきてー」
 「行くー!」と、3人が園庭端のコンテナを取りに行く。
 Bさん「こっち1個ちょうだい!こっち持ってて!」などと、声を掛け合っ

- この日は樋を設置することに夢中になる。
- これまで使っていた短め(1m弱)の樋は一人で組み合わせることができていたが、長い竹樋は重く一人で扱うのは難しい。
- 「こうしたら?」と、考えやイメージを出したり、試行錯誤したりして設定する。
- 「手伝って!」という気持ちを言葉にして伝えながら、友達と長いものをつなげるイメージを共有し、実現しようと協力して作る。



こっち、持ってるよ!

場面 3. こぼれちゃう

<7月上旬>

- ・長い樋を使い、高さの調整をしながら「(水が) 流れたかな?」と試している。
 - ・長い樋のつなぎ目をくっ付けることが難しいようで、3人で流し始めの高さを変えている。
 - ・Bさんがつなぎ目を合わせながら、「(樋のつなぎ目が) くっ付かないけど、どうかな」と言い、水を流してみる。
- Cさん「こっちまでこないよー」
Bさん「こぼれちゃうな…」
- ・「どうしようね?」と、一緒に考え、寄り添う保育者の言葉を聞くと、Bさんがこぼれている所にコップを置き、流れ落ちた水を集めようとした。

思うようにならず試行錯誤する経験

- 高さを調整する。
- つなぎ目を合わせる。

困っている様子を受け止め、「どうしようね」と声をかける。



水、来ないかな…

場面 4. 予想して使ってみる

<7月中旬>

- ・塩ビ管に気づいたCさんが、「これ何?」と保育者に聞く。Cさんと保育者がのぞき込み、「中、トンネルみたいだね」と言う。
 - ・Cさんが、「ほんとだ!」と言い、大発見したようにみんながいる砂場へ持って行く。
 - ・みんなは、「何これ?」とのぞき込み、Dさんが砂に埋め始める。もう一方にAさんが樋をつなげる。
 - ・樋を組み合わせて水を流してみるが、「あれ?出てこないね…」と、塩ビ管の中をのぞき込んで、周りの砂を見る。
 - ・その後も、水を流している。
- Aさん「出てきたー!」(砂に水がしみ始める)
Bさん「おしっこみたーい!」
- ・その後も、違う形状の物を、ワクワクしながら遊びに取り入れる。

塩ビ管を目に付く所に置く。

創意工夫する経験

- 今まで使っていた塩ビ管とは違う形状の物を使う。
- 保育者の予想とは違う使い方をしている。
- 子どもの発想の豊かさと実現を楽しむ姿が見られた。

あれ、出てこないな…



場面 5. 流しそうめんをやりたい場面

<7月中旬>

- ・長い樋を使って遊んだことから、流しそうめんを思いついたBさんが、その思いを保育者に伝える。Cさんも、Bさんと一緒に遊び始める。
 - ・毛糸に気づき、そうめんに見立てて流そうとするBさんだが、毛糸の塊は上手く流れていかない。
- Cさん「あれ、いかないなあ…」
Bさん「一本ずつするといいんじゃない」
- ・そうめんに見立てた毛糸が、一本ずつにすると流れる。
 - ・子どもたちは喜び、Cさんは「先生ー! はしと茶碗もほしい!」、Eさんは「ぼくも食べたいな」と言い、流しそうめん屋さんを展開した遊びは大盛況であった。

毛糸を目に付く所に置く。

なかなか、流れないな…



一本ずつ…流れてきたよ



試行錯誤する経験 ○毛糸は水で流れにくい。一本ずつにしたら、毛糸は水で流れた。

伝える経験 ○イメージしたことを言葉で伝え、流しそうめんを他の遊びをしていた友達と一緒に楽しむ。

【考察】 ビー玉遊びで使った樋が、砂場での遊びにつながり、子どもたちは、「樋を使い、水で砂、毛糸を流したい」との思いを実現しようと試行錯誤する過程で、素材の特性や性質に気づく体験をした。また、友達と一緒に遊びに必要な物を運び、イメージを共有して遊びを創り出していく楽しさをより強く感じ、意欲的に遊ぶことができた。子どもたちの遊びを支えるために、子どもたちが安心して自己を発揮し、自由に関われる遊びの拠点となる環境 (ex: 砂場)、気づきや発想から創意工夫して遊ぶために必要な環境 (ex: 樋)、イメージの共有や実現に必要な環境 (ex: ヘルメットや毛糸) 等、環境による働きかけを重視する援助を重ねた。子どもたちの遊びへの思いや友達との関わりが深まる体験を読み取って環境の再構成を図る保育者の援助が、子どもたちの体験や学びの深まりにつながっていることが分かった。